

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	3	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防の任務を遂行するため、必要不可欠となる知識を修得するため、計画的に職員研修を実施し、人材育成に取り組むこととする。 退職者の増加を勘案した、体制強化を継続的に進めていく必要がある。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を取得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	消防職員37人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 派遣計画者数/派遣者数	94	100	100	% 業務取得
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	3,615	6,492	金額(千円)	内容	4,410
	国支出金(千円)		4,811	消防学校等負担金	
	県支出金(千円)		1,253	技能講習等負担金	
	市債その他(千円)				
	一般財源(千円)	3,615	6,492		4,410

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化に対応するため、継続的に知識及び技術の修得が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関による取得以外に方法はなく、救急救助体制の確立には必要不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初	0	H26からの繰越	0
		H26⇒27繰越	0		
③達成状況		補正	0	現年分	0
		流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)		0		

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ確かな活動が出来る車両を更新整備する。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速且つ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	車両更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防車両及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	救急車及び薬剤搬送車を購入した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 車両更新率	100	100	100	% 車両更新計画
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	36,022	73,465	金額(千円)	内容	47,248
国支出金(千円)		15,749	39,621	備品購入費(2台)	
県支出金(千円)			31,860	手数料(梯子オーバーホール)	13,509
市債その他(千円)	30,000	21,000	1,897	手数料(AVM移設)	29,600
一般財源(千円)	6,022	36,716	58	公課費(重量税)	4,139

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民の安全安心のため消防車両等の更新は、継続していかなければならない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	はしご車のオーバーホール、救急車及び薬剤搬送車の購入。	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	はしご車をオーバーホールし、救急車及び薬剤搬送車を購入した。	78,049	78,049	当初	78,049	H26からの繰越	0	
				H26⇒27繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0	73,465	現年分	73,465
				流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		平成27年度への繰越額(単位:千円)				0		

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	くぬぎ山消防署建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	旧庁舎を解体し、外構工事を完成させる。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取組み結果	旧庁舎の解体及び外構工事を終え、くぬぎ山消防署建替事業が完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	くぬぎ山消防署	意図(対象をどうするのか)	くぬぎ山消防署の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防署に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害活動拠点となるくぬぎ山消防署を建替えることにより、震災等の災害時において確実な対応が可能となり、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	旧庁舎の解体及び外構工事を実施し、くぬぎ山消防署建替事業を完了した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 事業進捗率	3	73	100	%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算
事業費(千円)	243,099	111,994	金額(千円)			0
国支出金(千円)			108,069			工事請負費
県支出金(千円)	14,111		2,478			工事監理委託費
市債その他(千円)	224,300	87,300	963			家屋事後調査委託費
一般財源(千円)	4,688	24,694	166			工事用地借上料

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	建替工事が終了したため、今後は適正な維持・管理を行っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	旧くぬぎ山消防署の解体及び外構工事が完了したことにより、本事業が全て完了したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	旧庁舎を解体し、外構工事を完成させる。	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	旧庁舎を解体し、外構工事が完了した。	113,288	143,502	当初	113,288	111,994	H26からの繰越	18,299
				H26⇒27繰越	30,214			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	93,695
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)		流用・充当	0			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防本部庁舎建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	車庫棟及び外構工事を完成させる。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	倉庫棟及び外構工事を実施し、本事業を完了する。
②①に基づく取組み結果	車庫棟工事は完了したが、外構工事は、平成28年度内の工事完了に計画変更した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部庁舎	意図(対象をどうするのか)	消防本部庁舎の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防本部庁舎に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中核を担う消防本部庁舎の建替えを行うことにより、震災等の災害時において確実な対応が可能となり、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	平成28年2月末に車庫棟が完成した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 事業進捗率	14	77	89	%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算
事業費(千円)	603,366	108,939	金額(千円)	内容		37,430
国支出金(千円)			106,690	工事請負費		
県支出金(千円)	14,937		2,131	工事監理委託等		
市債その他(千円)	547,400	96,000	118	駐車場用地借上		26,300
一般財源(千円)	41,029	12,939				11,130

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害対応に支障を来すことなく、工事を進める必要がある。また、建替場所が住宅地に囲まれていることから、騒音や振動に対する近隣住民への配慮が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	活動拠点である消防本部庁舎施設整備を早急に実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	車庫棟及び外構工事を完了する。	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	車庫棟工事が完了した。	145,265	207,838	当初	136,747	108,939	H26からの繰越	56,026
				H26⇒27繰越	56,026			
③達成状況	未完了			補正	15,065		現年分	52,913
④未完了・非着手の理由	外構工事は、工事計画の変更により、平成28年度完了とした。			流用・充当	0			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		94,601				



平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	予防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	予防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	相川 昇			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	住宅用火災警報器普及調査の未実施及び未設置住宅を中心に継続的に調査を実施するとともに、維持管理周知の広報を実施する	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	住宅用火災警報器普及調査の未実施及び未設置住宅を中心に継続的に調査を実施するとともに、設置済み住宅における維持管理の周知及び広報を実施する。
②①に基づく取り組み結果	住宅用火災警報器の未実施地区の普及調査と併せ、設置済住宅にあっては維持管理周知を実施した		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・事業所・建築物 危険物施設	意図(対象をどうするのか)	①市民の防火意識の高揚 ②防火管理に係る認識及び技術の向上
②事務事業の概要	火災予防を推進するため、消防訓練や住宅用火災警報器のPR、建築確認時の消防設備の設置指導・検査及び立入検査を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	住宅用火災警報器の普及率は、継続的に調査を実施した結果、普及率は年々上昇している一方で、設置済住宅用火災警報器の電池切れや老朽などが発生のおそれがあるため維持管理の周知が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	火災予防を推進するため、春季・秋季の火災予防運動の実施や火災予防ポスター展等を開催した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 火災予防ポスター掲示	55	53	53	枚 業務取得
	ii 消防同意数	117	115	77	件 業務取得
	iii 住宅用火災警報器普及率	62.2	65	70.1	% 業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	1363	2473	金額(千円)	内容	2822
国支出金(千円)			171	火災予防啓発DVD	
県支出金(千円)			98	消防用備品	
市債その他(千円)					
一般財源(千円)	1,363	2,473			2,822

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	住宅用火災警報器普及調査と併せ、未設置住宅への設置推進及び設置済住宅への維持管理の周知が課題				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	住宅用火災警報器普及調査未実施地区の調査と併せ、設置済住宅への維持管理周知を実施したため				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取り組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当ができるようになる。
②事務事業の概要	救急車が到着するまでの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ(一般市民向け:成人を対象)・Ⅱ(一定頻度者向け:成人を対象)・Ⅲ(一般市民向け:小児・乳児を対象)を53回実施し、748人が参加、また上級救命講習(一般市民向け:成人・小児・乳児を対象)を2回実施し、34人が参加した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 普通救命講習修了者数	590	697	782	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	13,488	13,231	金額(千円)	内容	14,958	
国支出金(千円)			2,049	救急活動消耗品		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	13,488	13,231			14,958	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し修了者を増やしているが、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団員の環境整備として処遇強化に取り組み、団員確保のための広報活動の拡充を図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	消防団施設の維持管理及び、団員確保のための広報活動の拡充を図る。
②①に基づく取り組み結果	消防団員の処遇改善として、報酬及び費用弁償の改定を行った。また、各イベントを活用し、団活動PRIにより広く広報した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団施設、消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設の機能維持管理。
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、取り巻く環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	産業・就業構造の変化等による被雇用者(サラリーマン)の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	処遇改善として消防団員のうち部長・班長・団員の階級の年額報酬及び、費用弁償の引上げ改定を行った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 消防団員の定数に対する充足率	97	93.4	90.4	% 業務取得
	ii 機械器具点検	480	480	480	人 業務取得
	iii				
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	24,039	27,433	金額(千円)	内容	29,260
			5,559	消防団員報酬	
			7,485	費用弁償	
			1,024	健康診断手数料	
一般財源(千円)	24,039	27,433	2,060	消防団運営交付金	29,260

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	危機管理体制や地域防災力の向上など、防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、更に高まると予想できるため、継続して行う必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度のみ事業であるため、前回の評価なし。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	消防団の装備品について「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」による消防団装備品の更新及び日本防災協会認定品への防火衣の更新を行う。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	消防団員の活動服について、機能性及び識別性に優れたものに更新した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 消防団活動服の更新数			326	着	業務取得
	ii					
iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	0	4,788	金額(千円)	内容	980	
国支出金(千円)			4,788	消防団活動服更新		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)		3,000			980	
一般財源(千円)	0	1,788				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団装備品整備事業として後期基本計画第3次実施計画に計上し、平成27年度から31年度にかけて計画的に装備品を整備する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	消防団装備品の充実強化に関しては、平成27年度から計画的に進めているところであり、今後もこれに係る手続きを進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	消防団活動服の更新。	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	消防団活動服326着を更新した。	4,980	4,980	当初	4,980	4,788	H26からの繰越	
				H26⇒27繰越			現年分	4,788
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成28年度への繰越額(単位:千円)						